

第2回魅力発信部会の内容（要旨）

1 説明報告内容

(1) 第3回リニア駅周辺整備検討会議における協議内容の報告

- ①第2回リニア駅周辺整備検討会議、トランジットハブ・道路ネットワーク部会、魅力発信部会の開催状況について確認
- ②駅周辺整備を検討するエリア約7.8haのうち、整備区域（案）として駅北約3.8ha、駅南約2.7haの約6.5ha（リニア駅部の面積を除く）、土地利用計画における重点協議区域として約1.3haを想定していることを確認

(2) 第1回部会における検討内容について確認

- ①「リニア駅周辺整備基本構想」における魅力発信施設の位置づけの確認
- ②トランジットハブ・道路ネットワーク部会の検討状況についての報告
- ③求めるもの・期待するものなどについての主な意見についての確認

(3) 魅力発信の基本的な考え方について確認

- ①「リニア駅周辺整備基本構想」における目指す姿と基本方針について説明
 - ・目指す姿（基本的な理念）は「信州・伊那谷（ローカル）の個性で世界（グローバル）を惹きつけ、世界へ発信する玄関口（ゲートウェイ）」
 - ・信州や伊那谷が持つ豊かな個性を大切にし、更に高めることで世界を惹きつける魅力を育み、世界へ発信していくことを目指す
 - ・地域のコミュニケーションの場ともなるオール信州の魅力発信施設として備える機能の例として、観光情報等の提供・発信施設、地域住民や来訪者の利用を想定した交流施設、地域の物産販売施設などを想定

2 主な意見

- ・イメージとしては、大規模な屋外のイベント広場ではなく屋内の多目的なイベントブース。月替わり、週代わり、日替わりで活用できる施設であると良い。
- ・来訪者だけをターゲットにしているのは賑わいの創出は不可能。地域住民が集まり、利活用できるように考えるべきである。
- ・この地域の暮らしや農産物等を安心・安全といった切り口でアピールできると良い。観光だけでなく商業や工業も含めた総合産業として検討すべきである。
- ・ここに来て人と交わることで得られる情報を提供する多目的多機能なイベントスペース、商業スペースを充実するべき。
- ・周辺の町村にも駅の利用者に足を運んでもらえるような拠点となる施設であってほしい。
- ・リニア長野県駅と県内の各地域をつなげる連携機能を持たせるべきである。
- ・イベントなどの開催や食の充実などにより駅の魅力を創出し、駅を目的とする来訪者の獲得も検討すべきである。
- ・駅利用者と地元住民による賑わいの創出を考えると具体的には道の駅のような施設が想定されるが、整備区域内に整備するもの、高架下に整備するものなど区分けして検討すると良い。

- ・長野県全域とまではいかなくてもリニアバレー構想のエリアのものは網羅されている施設であること。
- ・産業界においても人材の確保が重要な課題であるが、いかにして人を呼び込めるかということになる。地元住民との交流から移住・定住につながるような魅力発信の場所であると良い。
- ・イベント広場を始めからつくり込んでしまうのではなく、利活用する人たちも一緒になってつくっていく部分も残しておくことが必要ではないか。
- ・リピーターの獲得を目的に時間や期間を限定して近隣地域を含めた地元の食を提供してみてはどうか。また、一度、駅を降りた人が少し滞在できる仕組みが必要である。
- ・食を切り口にすると比較的広域なエリアをPRすることができる。
- ・飯田線利用者に向けたPRも視野に入れるべきである。
- ・糸魚川では鉄道マニアや子どもを中心としたファミリー向けの鉄道関係の施設を作って評判が良い。今後の検討材料として実例を挙げてもらえるとイメージがしやすい。
- ・飯田線の模型やD51など飯田線をテーマにした施設があっても面白い。
- ・インバウンドに向けた取り組みとしてWi-fiや二次交通の整備が必要である。二次交通の整備に関しては、地元の高齢者に対しても有用である。
- ・首都圏からは電車を使ってくる人も多いため、レンタカーの充実など二次交通が大きな課題である。
- ・ターゲットが旅行者なのか、インバウンドであるのか、または地元住民であるのかを明確にすべき。
 - 当面は、対象を絞らず様々な切り口で多くのアイデアを出していただき、今後の検討において分野別、テーマ別に意見をまとめていく予定。
- ・他の事例があると検討の際に参考になる。